

学んだことを地域で生かす

防災教育

「三鷹中央学園防災教育全体計画」に基づき、災害時における「自助・共助・公助」を義務教育9年間で学んでいく防災教育を教育課程に組み入れています。

自助

危険を予測し、安全を確保する力



頭を守る、走って逃げるなどの災害時の対処法を学ぶ

小学校低学年



「マイ非常用持出し袋」を考えるワークショップで、災害発生後の生活を想像し、備えることの大切さを知る

小学校中学年

共助

周囲と共に助け合う力



「下校中に首都直下型地震が起きたら」自分にできることを考え、話し合う

小学校高学年



避難所設営体験から、誰もが過ごしやすい避難所にするために必要な配慮を知り、自分ができていることを考える

中学校

公助

地域の安全に貢献できる力



学校の防災倉庫を見学し、避難所としての備えを知る

小学校中学年



災害用仮設トイレを組み立てることで、災害用備品の活用法を学ぶ

中学校

私たち一人一人にできること

三鷹市総合防災訓練に参加する

CS委員会は、学園と三鷹市防災課、住民協議会および自主防災組織をつなぐ役目を担っています。毎年秋に行われる三鷹市総合防災訓練（連雀地区・駅前周辺地区）には、みがかSCサポートネットの協力のもと、地域の一員として小学生・中学生も役割をもって参加しています。子どもたちにとっては防災学習が地域に貢献できる学びであることを実感するよい機会となっており、地域の方々には子どもたちの意欲的な姿を見ていただける場となっています。みんなで一緒に参加しましょう。



三角巾包帯法の実演



災害用仮設トイレ組み立て



担架搬送訓練



小学生による防災パネル発表